

令和4年度 事業の状況

1. 令和4年度 教育研究助成事業

定款第4条第1項第1号に掲げる事業は次のとおり行った。

(1) 目 的

この助成は、岡山県内における医学及び医療福祉学に関する研究を助成し、その振興を図ることにより医療福祉社会の発展に寄与することを目的とする。

(2) 対 象

- ① 医学・医療福祉学の研究であって、申請者が1人で行うもの、または、2人以上の研究者が同一のテーマについて共同で行うもの。
- ② 特色ある研究を発展させるためのもの。
- ③ 40歳以下の者が行う研究で、将来の発展が期待できる優れた着想をもつもの。

(3) 選 考

選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定した。

(4) 申請件数、採択件数、助成額

申請のあった20件のうち16件を採択した。助成額は総額4,441,520円。

(5) 助成者一覧、成果等

(所属及び職名は申請書提出時点)

※ 助成対象となった16件のうち、3件は研究が継続されており、他13件について報告書が提出された。

①

あかぎ たかひこ 赤木 貴彦	川崎医科大学 リウマチ・膠原病学 講師
研究題目	TNF受容体関連周期性症候群（TRAPS）モデルマウスの病態解明
助成額	300,000円
成果等	本研究では、1型TNF受容体の遺伝子変異により生じるTNF受容体関連周期性症候群（TRAPS；TNF-receptor associated periodic syndrome）の病態解明を目的とした。ゲノム編集技術を用いてTRAPS変異を有するヒト不死化細胞株およびTRAPS変異マウスを作成、同疾患モデル細胞・マウスを用いて、炎症惹起因子・小胞体ストレス・炎症反応などTRAPSの病態解析を行なった。 まず、TRAPS変異モデルマウス（T79M、G87V、C62Y、T90I変異）4系統を用いて解析を行った。炎症惹起刺激としてLPS+D-Galactosamine（TNF依存性急性肝障害モデル）の投与を行ったところ、野生型・T90Iで致命的経過となるのに対し、T79M、G87V変異マウスでは致命的反応が低下しており、TNF刺激ではTRAPSの炎症病態を再現することはできず、炎症惹起にはTNF以外の物質が関与していることが示唆された。 次に炎症を惹起する刺激や条件を検討するため、in vitro で評価を行った。マウス骨髄由来マクロファージをTNFやLPSなどで刺激を行い、上清中のIL-1β、MPAK活性やNKκB活性の測定を行った。その結果、in vivo で得られた結果と同様に、TNFに対してT90Iは野生型と同様の反応を示していたが、T79M、G87V変異細胞はTNFに対する反応性が低下していた。LPS刺激についてはどの変異も野生型と同じ反応性を示していた。 最後にTNF刺激に対する反応性が低下する機序を探索するために、TNFR1の細胞内・外の発現について評価を行ったところ、T79M、G87V変異腹腔内マクロファージにおいて、TNFR1の細胞表面発現が低下していた。

本研究で検討した刺激においては、炎症病態の再現はできておらず、病態特異的な他の炎症惹起因子が存在することが示唆された。TRAPS は自己炎症性疾患とされているが、その病態の詳細はいまだ不明である。TRAPS モデルマウスを用いた本研究では、ヒト患者同様の炎症病態を再現することは出来なかったが、TRAPS 変異が TNFR1 の挙動・機能にどのように影響するかが明らかとなった。これら TRAPS 変異マウスの解析を進めることで、TRAPS の病態解明、さらには TNFR1 を介する炎症性疾患の病態理解につながると考える。									
②	<table border="1"> <tr> <td>まつもと ゆうじ 松本 悠司</td><td>岡山大学 医学部 脳神経外科学 客員研究員</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>膠芽腫における免疫チェックポイント分子が腫瘍細胞内シグナリングに与える影響の解明</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>300,000 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>当科が所有している膠芽腫の細胞株の Programmed death-ligand 1 (PD-L1) 発現をウェスタンブロットで確認した。その中から、患者由来の膠芽腫幹細胞株である GBM12 に着目した。PD-L1 をノックダウンした GBM12 では、コントロール細胞と比べて mTOR の発現が低下していた。膠芽腫では PI3K-AKT-mTOR キナーゼ経路によるシグナル伝達活性化が腫瘍細胞の悪性化に寄与しているとされており、PD-L1 自身は抗腫瘍免疫応答のみならず腫瘍細胞自身の悪性化に寄与していることが示唆された。現在、1) PD-L1 をノックダウンした GBM12 2) コントロールの GBM12 の細胞で RNA シークエンスを行い、両者を比較し PD-L1 が腫瘍細胞内シグナリングに与える影響の解明を進める予定である。その結果を踏まえ、膠芽腫に対する免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) の治療効果改善を目標とした研究を継続する。</td></tr> </table>	まつもと ゆうじ 松本 悠司	岡山大学 医学部 脳神経外科学 客員研究員	研究題目	膠芽腫における免疫チェックポイント分子が腫瘍細胞内シグナリングに与える影響の解明	助 成 額	300,000 円	成 果 等	当科が所有している膠芽腫の細胞株の Programmed death-ligand 1 (PD-L1) 発現をウェスタンブロットで確認した。その中から、患者由来の膠芽腫幹細胞株である GBM12 に着目した。PD-L1 をノックダウンした GBM12 では、コントロール細胞と比べて mTOR の発現が低下していた。膠芽腫では PI3K-AKT-mTOR キナーゼ経路によるシグナル伝達活性化が腫瘍細胞の悪性化に寄与しているとされており、PD-L1 自身は抗腫瘍免疫応答のみならず腫瘍細胞自身の悪性化に寄与していることが示唆された。現在、1) PD-L1 をノックダウンした GBM12 2) コントロールの GBM12 の細胞で RNA シークエンスを行い、両者を比較し PD-L1 が腫瘍細胞内シグナリングに与える影響の解明を進める予定である。その結果を踏まえ、膠芽腫に対する免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) の治療効果改善を目標とした研究を継続する。
まつもと ゆうじ 松本 悠司	岡山大学 医学部 脳神経外科学 客員研究員								
研究題目	膠芽腫における免疫チェックポイント分子が腫瘍細胞内シグナリングに与える影響の解明								
助 成 額	300,000 円								
成 果 等	当科が所有している膠芽腫の細胞株の Programmed death-ligand 1 (PD-L1) 発現をウェスタンブロットで確認した。その中から、患者由来の膠芽腫幹細胞株である GBM12 に着目した。PD-L1 をノックダウンした GBM12 では、コントロール細胞と比べて mTOR の発現が低下していた。膠芽腫では PI3K-AKT-mTOR キナーゼ経路によるシグナル伝達活性化が腫瘍細胞の悪性化に寄与しているとされており、PD-L1 自身は抗腫瘍免疫応答のみならず腫瘍細胞自身の悪性化に寄与していることが示唆された。現在、1) PD-L1 をノックダウンした GBM12 2) コントロールの GBM12 の細胞で RNA シークエンスを行い、両者を比較し PD-L1 が腫瘍細胞内シグナリングに与える影響の解明を進める予定である。その結果を踏まえ、膠芽腫に対する免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) の治療効果改善を目標とした研究を継続する。								
③	<table border="1"> <tr> <td>もりなか ひろふみ 森中 啓文</td><td>川崎医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻 生理系分野 尿路生殖器病態生理学 大学院生</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>加齢男性性腺機能低下症候群 (LOH 症候群) に対する新規治療薬の探求ー Phosphodiesterase (PDE) 5 阻害によるテストステロン産生作用への期待ー</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>300,000 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>本研究は、PDE5 阻害薬の新たな薬理作用に着目した基礎研究であり、研究成果により加齢性精巣機能障害に対する PDE5 阻害薬を用いた抑制作用が示された。上記成果から、PDE5 阻害薬は、加齢男性性腺機能低下症候群 (LOH 症候群) に対して、現在、標準治療となっているテストステロン補充療法と比較してよりも生理的な効果が期待できる治療となる可能性がある。研究成果は、次年度の泌尿器科関連領域の主要な国内および国際学会で演題発表を行ったうえで、論文を投稿予定である。</td></tr> </table>	もりなか ひろふみ 森中 啓文	川崎医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻 生理系分野 尿路生殖器病態生理学 大学院生	研究題目	加齢男性性腺機能低下症候群 (LOH 症候群) に対する新規治療薬の探求ー Phosphodiesterase (PDE) 5 阻害によるテストステロン産生作用への期待ー	助 成 額	300,000 円	成 果 等	本研究は、PDE5 阻害薬の新たな薬理作用に着目した基礎研究であり、研究成果により加齢性精巣機能障害に対する PDE5 阻害薬を用いた抑制作用が示された。上記成果から、PDE5 阻害薬は、加齢男性性腺機能低下症候群 (LOH 症候群) に対して、現在、標準治療となっているテストステロン補充療法と比較してよりも生理的な効果が期待できる治療となる可能性がある。研究成果は、次年度の泌尿器科関連領域の主要な国内および国際学会で演題発表を行ったうえで、論文を投稿予定である。
もりなか ひろふみ 森中 啓文	川崎医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻 生理系分野 尿路生殖器病態生理学 大学院生								
研究題目	加齢男性性腺機能低下症候群 (LOH 症候群) に対する新規治療薬の探求ー Phosphodiesterase (PDE) 5 阻害によるテストステロン産生作用への期待ー								
助 成 額	300,000 円								
成 果 等	本研究は、PDE5 阻害薬の新たな薬理作用に着目した基礎研究であり、研究成果により加齢性精巣機能障害に対する PDE5 阻害薬を用いた抑制作用が示された。上記成果から、PDE5 阻害薬は、加齢男性性腺機能低下症候群 (LOH 症候群) に対して、現在、標準治療となっているテストステロン補充療法と比較してよりも生理的な効果が期待できる治療となる可能性がある。研究成果は、次年度の泌尿器科関連領域の主要な国内および国際学会で演題発表を行ったうえで、論文を投稿予定である。								
④	<table border="1"> <tr> <td>わたなべ まさひろ 渡邊 政博</td><td>就実大学 薬学部 講師</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>内在性 DAMPs 抑制分子を応用した新規炎症性疾患治療法の創製</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>300,000 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>RPL9 のアミノ酸配列から、この分子の DAMPs 抑制作用に寄与する領域の探索を行った結果、RPL9 の作用を代替可能なペプチドを見出すことに成功した。この結果に基づいて RPL9 の作用メカニズムについて考察することができた (論文投稿準備中)。また、リコンビナント RPL9 の大量調製系の構築には時間を要しているものの、今回発見したペプチドを用いることで RPL9 が敗血症病態に与える影響を解析することも可能であると考えている。そのため次の段階として、このペプチドを敗血症病態モデルに投与する実験系の構築を進めている。</td></tr> </table>	わたなべ まさひろ 渡邊 政博	就実大学 薬学部 講師	研究題目	内在性 DAMPs 抑制分子を応用した新規炎症性疾患治療法の創製	助 成 額	300,000 円	成 果 等	RPL9 のアミノ酸配列から、この分子の DAMPs 抑制作用に寄与する領域の探索を行った結果、RPL9 の作用を代替可能なペプチドを見出すことに成功した。この結果に基づいて RPL9 の作用メカニズムについて考察することができた (論文投稿準備中)。また、リコンビナント RPL9 の大量調製系の構築には時間を要しているものの、今回発見したペプチドを用いることで RPL9 が敗血症病態に与える影響を解析することも可能であると考えている。そのため次の段階として、このペプチドを敗血症病態モデルに投与する実験系の構築を進めている。
わたなべ まさひろ 渡邊 政博	就実大学 薬学部 講師								
研究題目	内在性 DAMPs 抑制分子を応用した新規炎症性疾患治療法の創製								
助 成 額	300,000 円								
成 果 等	RPL9 のアミノ酸配列から、この分子の DAMPs 抑制作用に寄与する領域の探索を行った結果、RPL9 の作用を代替可能なペプチドを見出すことに成功した。この結果に基づいて RPL9 の作用メカニズムについて考察することができた (論文投稿準備中)。また、リコンビナント RPL9 の大量調製系の構築には時間を要しているものの、今回発見したペプチドを用いることで RPL9 が敗血症病態に与える影響を解析することも可能であると考えている。そのため次の段階として、このペプチドを敗血症病態モデルに投与する実験系の構築を進めている。								

⑤	おおした かずしげ 大下 和茂	岡山県立大学 情報工学部 准教授
	研究題目	若年女性の正常体重肥満（いわゆる隠れ肥満）に関わる過去および現在の生活習慣因子の検討
	助成額	300,000 円
	成果等	①過去・現在の運動習慣と正常体重肥満（NW-0）との関係を検討した結果、過去に運動習慣のある女子大学生でも、現在の身体活動レベル（PAL）が NW-0 と関連し、NW-0 は骨格筋指数（SMI）の低値と関係することが明らかとなった。また、サルコペニア診断における筋量低下およびその予備軍に該当する SMI 値の者は、正常体重（NW）で 18.6%、正常体重・低脂肪（NW-L）で 7.4%だったのに対し、NW-0 では 60.0%と半数以上が低筋量であった。これらの結果から、過去に運動習慣のある若年女性であっても、現在の身体活動量を確保することが身体組成を適正に保つために重要であり、若年女性における NW-0 の予防は、生活習慣病やメタボリックシンドロームの予防だけでなく、将来的な運動器障害やサルコペニアの予防にも重要であることを示唆している。 ②現在の生活習慣をクロノタイプも含めて調査し、身体組成との関係について検討を加えた。対象者の朝型-夜型質問表 自己評価版（MEQ-SA）スコア平均値について、スコアの低い群（低 MEQ 群）は 42.5 ± 5.7 で、中間型のなかで夜型寄り、スコアの高い群（高 MEQ 群）は 59.0 ± 5.7 で、適度な朝型であった。BMI、総エネルギー摂取量および三大栄養素各摂取量（含・総エネルギー摂取量比）は群間で有意な差を示さなかった。PAL は低 MEQ 群に比べて、高 MEQ 群で有意に高い傾向を示した（1.76 ± 0.23 vs. 1.86 ± 0.16, $P = 0.06$）。しかし、両群の PAL は『日本人の食事摂取基準』（厚生労働省）の分類で“ふつう”の範囲内であり、効果量も小さかった（$d = 0.49$）。このように、栄養摂取量に差は認められず、平日の PAL の差も大きくはないが、高 MEQ 群に比べ低 MEQ 群で、体脂肪率は有意に高く（$24.9 \pm 4.7\%$ vs. $27.8 \pm 5.7\%$, $P = 0.04$）、SMI は有意に低く（$7.2 \pm 1.0 \text{ kg/m}^2$ vs. $6.6 \pm 0.9 \text{ kg/m}^2$, $P = 0.01$）、いずれの効果量も中程度であった（$d = 0.56$ および 0.62）。今回は十分な対象者数だったと言えないが、クロノタイプにより PAL や栄養摂取量に大きな差がなくとも、朝型傾向の女子学生で筋量が高く、体脂肪率は低い事を示唆した。我々は最近、平日の PAL は社会的制約の影響でクロノタイプによる差が表れにくく、社会的制約の影響が小さい週末の PAL は、朝型者に比べ夜型者で低くなることを示唆した（Miyazaki ら, <i>Physiol Behav</i>, 2022）。そのため、今後は、平日だけでなく休日の PAL も調べる必要があり、さらに、食事時間や入眠・睡眠時間などについても検討を加える必要がある。
⑥	もりわき たかひと 森脇 隆仁	川崎医科大学 分子遺伝医学 助教
	研究題目	炎症性発がんのメカニズム解明
	助成額	300,000 円
	成果等	ゲルシフトアッセイによる検討では HeLa 細胞や HEK293T 細胞など、いくつかの細胞から 8G/U 対向型 DNA 損傷を認識する活性が検出された。これらは、ウラシルや 8-オキシグアニンを認識するタンパク質のバンドとは異なるサイズであった。次に DNA ニッキングアッセイで 8G/U 対向型 DNA 損傷の切断活性の検出を試みた。その結果、8G/U 対向型 DNA 損傷のうち、ウラシルを切断する活性が検出された一方で、8-オキシグアニン側は切断されることが分かった。
⑦	ひらた じゅんや 平田 淳也	川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師
	研究題目	高齢者を対象とした遠隔リハビリテーションによる運動習慣獲得の効果検証

	助 成 額	222,000 円
	成 果 等	運動メニューは、関節の柔軟性向上を目的としたもの、筋力の向上を目的としたもの、バランス能力の向上を目的としたもの、持久力の向上を目的としたもの、歩行能力の向上を目的としたもので構成された。それぞれ 5 段階の難易度を設定し、各課題を達成するまでの到達期間を検討したが、ばらつきが大きく、課題の難易度調整を行う必要性が明らかになった。アプリケーションについては、運動の様子を報告するためのカメラ撮影機能と、運動参加者の課題に対する主観的難易度報告の機能を実装する必要性が明らかになった。
⑧	なかむら かつや 中村 克哉	川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 言語聴覚士
	研究題目	高齢女性患者における円背姿勢が摂食嚥下機能に及ぼす影響
	助 成 額	140,000 円
	成 果 等	本研究の結果から安楽座位は直立座位と比較して円背の程度は大きく、頭部前方位であることが示された。そして、安楽座位は直立座位と比較して嚥下速度が有意に低下するという結果だった。高齢女性患者において、座位における円背姿勢は嚥下速度の低下に影響することが示唆された。
⑨	ふじた みか 藤田 美佳	川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 視能療法学科 助教
	研究題目	半側空間無視および同名半盲に対する視線計測装置を用いた眼球運動の定量的評価指標と年代別基準の検討
	助 成 額	179,520 円
	成 果 等	眼球運動は視標振幅 10°、20°、30° の衝動性眼球運動 (SEM) と視標振幅 30°、移動速度 6°/s の滑動性眼球運動 (SPEM) の 2 種類を測定した。SEM の評価指標として、空間知覚に要する時間の把握に「持続時間」、空間知覚の正確性の把握に「視線移動量」および「SEM 回数」、視線位置の正確性に対する補助的評価として「視点取得率」を設定し、SPEM の評価指標として、注意の持続の把握に「視標追従量」と「SEM 混入回数」を設定した。その結果、眼球運動の年齢変化は SEM には認められず、SPEM の SEM 混入回数には年齢とともに増加が認められた。これは視線計測装置で測定した結果が眼球電図の報告と一致していることが確認でき、SEM と SPEM それぞれの 20～60 代の年齢別正常範囲を求めることができた。
⑩	いしづか ゆうた 石塚 佑太	川崎医科大学 病態代謝学 講師
	研究題目	網膜色素変性症の新規モデルマウスとなり得るプロサポシン過剰発現マウスの解析
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	ヒトプロサポシン過剰発現マウスの網膜視細胞は、生後 6 週齢にはほぼ完全に脱落することがわかった。また、ヘテロ接合体に比べホモ接合体では視細胞脱落の程度が大きいことから、プロサポシンの発現量と視細胞脱落が相関していると推察された。眼球および MEF を用いたウェスタンブロット解析では、リソソームタンパク質である LAMP1 および LAMP2 の発現量が増加していたことから、ヒトプロサポシン過剰発現マウスの眼球においてリソソーム機能が亢進している可能性が示唆された。
⑪	おおうち たつひろ 大内 達央	川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 視能療法学科 助教
	研究題目	視線計測装置を用いた新しい視力検査システムの構築
	助 成 額	300,000 円

	成 果 等	本研究では、屈折異常以外に眼科的疾患のない健常成人 26 名 26 眼を対象に、視線計測装置を用いた自動視力検査と現在の乳幼児の視力検査のスタンダードである Teller acuity card による視力検査の視力値を比較した。その結果、両者に有意差や固定誤差、比例誤差はみられず、有意な正の相関を示し、健常成人を対象とした視線計測装置を用いた自動視力検査は正確な視力評価に有用であることが確認できた。今後は視線計測装置の利点を生かして、測定時の馴化を防ぐために刺激間に乳幼児の興味を引く音声、写真、動画で reward を呈示する工夫を取り入れ、乳幼児や小児の弱視症例でも精度の高い結果が得られるよう検証を重ねていく予定である。
⑫	せ べ まゆ 瀬部 真由	川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床栄養学科 助教
	研究題目	感染症・食中毒対策への応用を目指したジャワショウガ由来成分の抗菌活性の検討
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	バングレンには幾何異性体である cis 型バングレンと trans 型バングレンがある。cis 型、trans 型バングレンはそれぞれ歯周病関連菌 <i>Porphyromonas gingivalis</i> (<i>P. gingivalis</i>) に対して MIC 4 $\mu\text{g/ml}$ と抗菌活性が認められた。一方で、口腔内常在菌の 1 つであるレンサ球菌 <i>Streptococcus oralis</i>、<i>Streptococcus mitis</i> などに対しては、256 $\mu\text{g/ml}$ とバングレンを添加しても増殖抑制効果は認められなかった。さらに、<i>P. gingivalis</i> のバイオフィーム形成に対するバングレンの効果を検討したところ、バイオフィームの形成量は cis 型を添加すると 47%、trans 型を添加すると 40% 低下した。よって、本研究で着目したバングレンは口腔内常在菌に影響を及ぼさず、<i>P. gingivalis</i> 特異的に抗菌活性やバイオフィーム形成阻害効果を持つことが示され、より安全性の高い口腔ケアへの応用が期待できる。
⑬	かみうえ まさのり 紙上 真徳	川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究科 リハビリテーション学専攻 博士後期課程 大学院生
	研究題目	高齢者への高頻度反復末梢性磁気刺激が下肢筋力や自己効力感に与える影響
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	介入開始 1 カ月前と介入直前の間で最大随意収縮力 (MVC) に変化はなかった。MVC は介入直前 (右 / 左 : 59.9$\pm$17.2 Nm / 64.5$\pm$21.0 Nm) よりも介入終了直後 (72.4$\pm$23.5 Nm / 72.9$\pm$23.0 Nm) で有意に増加し、r-PMS 中の KET も介入直前 (10.0$\pm$4.7 Nm / 10.6$\pm$4.6 Nm) よりも介入終了直後 (12.3$\pm$4.9 Nm / 12.3$\pm$4.7 Nm) で有意に増加した。30 秒立ち上がりテストは介入直前 (9.5$\pm$4.5 回) よりも介入終了直後 (12.8$\pm$4.4 回) で有意に増加し、Timed Up and Go Test は介入直前 (16.0$\pm$5.5 秒) よりも介入終了直後 (12.1$\pm$5.1 秒) で有意に短縮した。疼痛は介入直前は 8.0$\pm$13.9 であったが、介入終了直後はすべての被験者で 0 となった。その他の評価では有意な変化を認めなかった。 結語として、高齢者の下肢筋への r-PMS は筋力を向上させることが示された。また、立ち上がり動作やバランス能力にも影響を与える可能性が知られた。

2. 令和 4 年度 教育研究機関及び地域社会との連携・交流助成事業 定款第 4 条第 1 項第 2 号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) 目 的

この助成は、岡山県内の医学・医療福祉学教育研究機関と地域社会との連携・交流事業に対して助成し、その振興を図り、生涯学習熱の高まる県民に対して、医療・福祉知識の一層の普及を図ることを目的とする。

(2) 対 象

岡山県内の医学・医療福祉学に関する教育研究機関に所属するものが実施する次の行事を対象とする。

① 公開講座 ② セミナー ③ 講演会 ④ 研究会 ⑤ 研修会 等

(3) 選 考

選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定した。

(4) 申請件数、採択件数、助成額

申請件数は4件。全件を採択し、助成総額は660,000円。

(5) 助成者一覧、成果等

(所属及び職名は申請書提出時点)

①	さいしょう しんすけ 最 相 晋 輔	川崎医科大学 呼吸器外科学 講師
	行 事 名	第 97 回中国四国外科学会総会・第 27 回中国四国内視鏡外科研究会
	期 日	令和 4 年 9 月 15 日（木）・16 日（金）
	会 場	倉敷市芸文館
	助 成 額	200,000 円
	成 果 等	標記学会を予定通り現地開催し、中国四国地域の多くの外科医に参加いただいた。特に、若手外科医ならびに研修医を対象としたセッションでは優れた発表と活発な討論がなされた。今回、3 年ぶりに現地開催が行えたことで、学識と交流を深める良い機会になったと考えられ、岡山県下ならびに中国四国地区の外科診療のレベルの向上に寄与しえたと思われる。
②	ふじわら よしのり 藤 原 由 規	川崎医科大学 消化器外科学 特任教授
	行 事 名	第 6 回日本統合医療学会岡山支部学術講演会
	期 日	令和 4 年 10 月 9 日（日）
	会 場	川崎医療福祉大学 講義棟
	助 成 額	200,000 円
	成 果 等	大学の授業項目にはない“統合医療”の知見を岡山県に根付かせるための活動を行うための学術集会を開催した。研究機関や地域社会と連携・交流でき、参加した医療関係者ならびに一般市民へ、統合医療についての深い理解と、宗教と統合医療のかかわりについての知見が得られるような啓発が行えた。
③	さとう ひろき 佐 藤 宏 樹	川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 理学療法士
	行 事 名	令和 4 年度いばら元気シニアワードラリー
	期 日	令和 4 年 7 月の 4 日間、令和 5 年 1 月の 4 日間
	会 場	井原市内の 5 つの公共施設（公民館、体育館）
	助 成 額	200,000 円
	成 果 等	本事業は予定通り井原市と川崎学園が協働し、上記の日程にて開催し

た。井原市地域包括支援センターに勤務する保健師や理学療法士と川崎学園の理学療法士や作業療法士が連携し、井原市在中の高齢者のフレイルの評価や対策に関する事業を開催した。前期では、介護予防講座としてフレイルの概要や種類、予防方法などの講話を行った。その後、体力測定会の結果を元にフィードバックや必要なトレーニングを指導した。後期は、前期に参加した方を対象とし、いばら元気シニアワードラリーや自主的なトレーニングの効果を評価するために前期と同様の体力測定会を開催した。後期の体力測定会の参加者には、運動の継続や意欲、社会的交流の状態などのアンケートを実施した。前期と比較して、筋力やバランス練習が向上している参加者が多く存在する一方で、身体機能がわずかに低下している参加者も存在していた。身体機能が低下している参加者は運動の継続率が悪く、社会的交流を確保できていない傾向がみられた。そのため、身体機能の状態を改めてフィードバックした上で、井原市地域包括支援センターのスタッフが地域での取り組みや参加可能なイベントなどを紹介した。このように本事業は、個々の身体機能や生活習慣に合わせた最適なトレーニングを提供し、疾病予防を組み合わせたフレイル対策の事業を開催できたと考える。COVID-19 感染症の流行下において、地域高齢者におけるフレイルの予防や健康寿命の延伸に効果的であった。

④	のむら つねひさ 野村 長久	川崎医科大学 乳腺甲状腺外科学 講師
	行 事 名	第 31 回西部乳腺研究会
	期 日	令和 4 年 8 月 27 日（土）
	実施方法	Zoom による遠隔講演、症例検討
	助 成 額	60,000 円
	成 果 等	受講された医療従事者が明日から使えるテクニックを修得し、実践することが期待できる。岡山県の乳癌検診従事者に対する講演内容であるため、検診精度の向上が期待できる。

3. 令和 4 年度 国際教育・研究交流助成事業

定款第 4 条第 1 項第 3 号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) 目 的

この助成は、医学・医療福祉学にかかわる岡山県内の研究者を研修のため海外へ派遣したり、外国から県内の大学へ招請する事業に対して旅費、滞在費等の一部を助成することにより、教育・研究の向上に資することを目的とする。

(2) 派遣・招請の対象

- ① 外国の研究であること
- ② 教育研究に優れた実績のある外国の大学・研究所での研修であること。
- ③ 医学・医療福祉学に関する研究であって、研究レベルを向上させるもの。

(3) 派遣・招請の資格

- ① 優れた教育研究活動の資質があること。
- ② 国際活動に必要な語学力を有すること。
- ③ 研究活動への参加により、教育活動の向上が期待されること。

(4) 選 考

選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定した。

(5) 申請件数、採択件数、助成額

＜派遣＞ 申請なし

＜招請＞ 申請なし。

4. その他目的を達成するために必要な事業

定款第4条第1項第4号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) P R 事業（ホームページの随時更新）

ホームページを通じて、当法人の概要やコンセプトをはじめ、必要に応じて時宜を得た情報を発信し、本来の趣旨や目的の実現を図るため、また、本法人の財務状況を公表し、助成公募や寄附金募集の事業を積極的に推進するために内容の更新を積極的に行った。これまで129名の受賞者の「受賞者寄稿文」を掲載するなど、一層の充実がなされた。

(2) 募金事業

当法人の財源に充てるべく、また、当法人の事業の周知という観点から、令和4年度においても募金事業を行った。学園内の教員や岡山県病院協会関係の病院、業者等に要請を行った結果、年度末までには6,375,000円の浄財が寄せられた。